



環境経営レポート



(対象：2022年2月1日～2023年1月31日)



あんしん 新鮮 たまご

これが、私たちの姿勢です。

イセデリカでは「あんしん 新鮮 たまご」の
3つのキーワードをもとに
お客様、地域、イセデリカの「和」を第一にしております。

発行日：2023年2月1日



《 目 次 》



ご挨拶	3ページ
1. 環境経営方針	4ページ
2. 事業活動の規模	5ページ
3. 環境目標とその実績	6ページ
4. EA21推進体制	7ページ
5. 竜ヶ崎本社工場	8～12ページ
① 事業活動の規模（2022年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取り組みと評価	
④ 2022年竜ヶ崎工場トピックス	
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
6. 白羽工場・商品センター	13～17ページ
① 事業活動の規模（2022年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取り組みと評価	
④ 2022年白羽工場・商品センター・麴町事務所トピックス	
⑤ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
7. 麴町オフィス	18～21ページ
① 事業活動の規模（2022年度）	
② 環境目標とその実績	
③ 環境活動計画の取り組みと評価	
④ 代表者による全体の評価と見直し・環境関連法規制の遵守	
8.緊急事態対応訓練記録	22ページ
9.エコキャップ活動	23ページ
10.地域貢献活動の紹介	24ページ
11.代表者による全体の評価と見直し	25ページ





〔ご挨拶〕



イセデリカ株式会社は1997年茨城県龍ケ崎市に誕生し創業以来、鶏卵を加工する食品メーカーとして本日まで歩んでまいりました。

「私たちは、毎日を支える“おいしい”を高め、人々の喜びに貢献します。」を理念に、パック卵、液卵、茹で卵、温泉卵、タマゴサラダ、焼成品を、大手コンビニエンスストアを中心に365日お届けしております。お陰様で順調にお客様からの引き合いをいただき、その過程を通して、企業としても事業としてもここまで着実に育てていただきました。食品メーカーとして安全・安心な食品をお届けすることはゆるぎない責務であると同時に、これからは社会の公器としてより一層、社会的信頼と環境配慮への意識と行動を高めていきたい所存です。

このような背景の中、本年度よりエコアクション21活動を開始し、同時にその一環として地域への貢献活動も少しずつではありますが取り組みを開始しております。

「地球環境への配慮を土台とした経営理念の実践」を当社ひとり一人が理解し取り組み、持続可能な社会の実現を今後も目指して参ります。

一年間の活動を内省し、次への成長の糧とするものと位置づけ、以下、環境活動レポートをまとめました。ご高覧のほどお願い申し上げます。



2023年2月1日

代表取締役社長 榎並 高志



1.〔イセデリカ株式会社 環境経営方針〕

【基本理念】

当社の経営理念である「わたしたちは、毎日をささえる“おいしい”を高め、人々のよろこびに貢献します。」の実践においては、この地球環境への配慮なくしては成り立ちません。「地球環境への配慮を土台とした経営理念の実践」を当社ひとり一人が理解し取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

【基本方針】

- 1) 事業活動及び商品に関わる環境関連法規・規制及び協定等を遵守し、環境保全を図ります。
- 2) 環境経営システムの構築と専門組織を設置し、継続的改善を図ります。
- 3) 事業活動及び商品に関わるすべての過程において地球環境の配慮を常に意識した活動を行います。

【重点テーマ】

- ◎ 食品廃棄物の排出量削減、及び再資源化の向上
 - ◎ エネルギー利用の合理化の推進
 - ◎ 排水水質の維持管理
- 4) 環境教育を通して、全従業員へ環境方針の理解と周知徹底を行い、環境保全の意識の高揚と行動の実践を諮ります。
 - 5) この環境方針は、社内外に公表いたします。

2022年6月13日
イセデリカ株式会社
代表取締役社長
榎並 高志



2. イセデリカ株式会社 事業活動の規模（2022年度）



1. 事業所及び代表者名

イセデリカ株式会社
代表取締役社長 榎並 高志

2. 所在地

本社：〒301-8505 茨城県龍ケ崎市馴馬町 5167-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者： 代表取締役社長 榎並 高志
環境管理責任者： 生産管理部部長 上田 弘
E A 2 1 事務局： 竜ヶ崎本社工場設備課課長 木村 昌宏
TEL：0297-65-0505
FAX：0297-65-0510

4. 対象範囲

イセデリカ株式会社
☆竜ヶ崎本社工場
☆白羽工場・商品センター
☆麴町オフィス

5. 事業の内容

パック卵及び卵加工食品の製造・販売

6. 事業規模

竜ヶ崎本社工場・白羽工場・商品センター・麴町オフィスの合算

活動規模	単位	2020年	2021年	2022年
製造重量	t	20,633	20,500	19,661
製品売上	百万円	18,822	17,962	19,322
従業員数	人	429	407	404
延べ床面積	m ²	11,668	11,668	11,668

主な環境負荷実績

環境への負荷	単位	2020年	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	8,300,231	8,571,661	7,678,181
②廃棄物排出量	t	1,791	2,264	2,223
③排水量	m ³	331,678	346,500	344,122

3. イセデリカ株式会社 環境目標とその実績

当社に於ける2021/2/1～2022/1/31の環境負荷実績を把握し、2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 環境目標とその実績

* 購入電力の排出係数は、0.39を使用しています。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2021年	2022年				2024年
	平均実績	目標	目標値	平均実績	目標の達成状況	目標
①製造重量1 t 当たりの電力による二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ / t)	246.7	2021年実績に対して1%削減	244.2	261.7	達成率93.3% ・散水や遮光ネット、空調管理を進めるとともに中長期的には設備入れ替えを検討	239.3
②製造重量1 t 当たりのガスによる二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ / t)	174.9	2021年実績に対して1%削減	173.2	181.6	達成率95.3% ・生産計画の見直し等により、さらなる削減を計画	169.7
③製造重量1 t 当たりの排水量の削減 (m ³)	14.0	2021年実績に対して1%削減	13.9	14.3	達成率96.9% ・節水コマの設置や使用状況の把握・改善効果	13.6
④一般廃棄物排出量の削減 (t)	10.4	2021年実績に対して1%削減	10.3	8.4	達成率122.3% ・分別によりサイクル化	10.1
⑤食品廃棄物排出量の削減 (t)	79.8	2021年実績に対して1%削減	79.0	84.7	達成率93.2% ・規格外品のリサイクル (再商品化)、可視化による発生抑制効果	77.4
⑥食品再生利用率 (%)	100.0	食品リサイクル法遵守	95.0	100.0	再生利用率100% ・食品廃棄物発生に対して最終処分場で肥料として再生化	95.0
⑦グリーン購入比率の向上 (%)	-	購入状況把握、向上	-	59.75	グリーン購入比率の把握は出来た 目標比率の設定を行う	グリーン購入の継続
⑧化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	MSDSの掲示 持ち出し記録・ 在庫確認を日々 実施	管理の徹底	-	-	紛失や異常処理はなし 取り扱い教育を通じて 関連労災をなくす	通常管理 関連労災 0 件

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	9,537,046	7,502,430	7,678,181
②廃棄物排出量(t)	1,786	8,786	7,338
③排水量 (m ³)	331,678	340,546	344,122

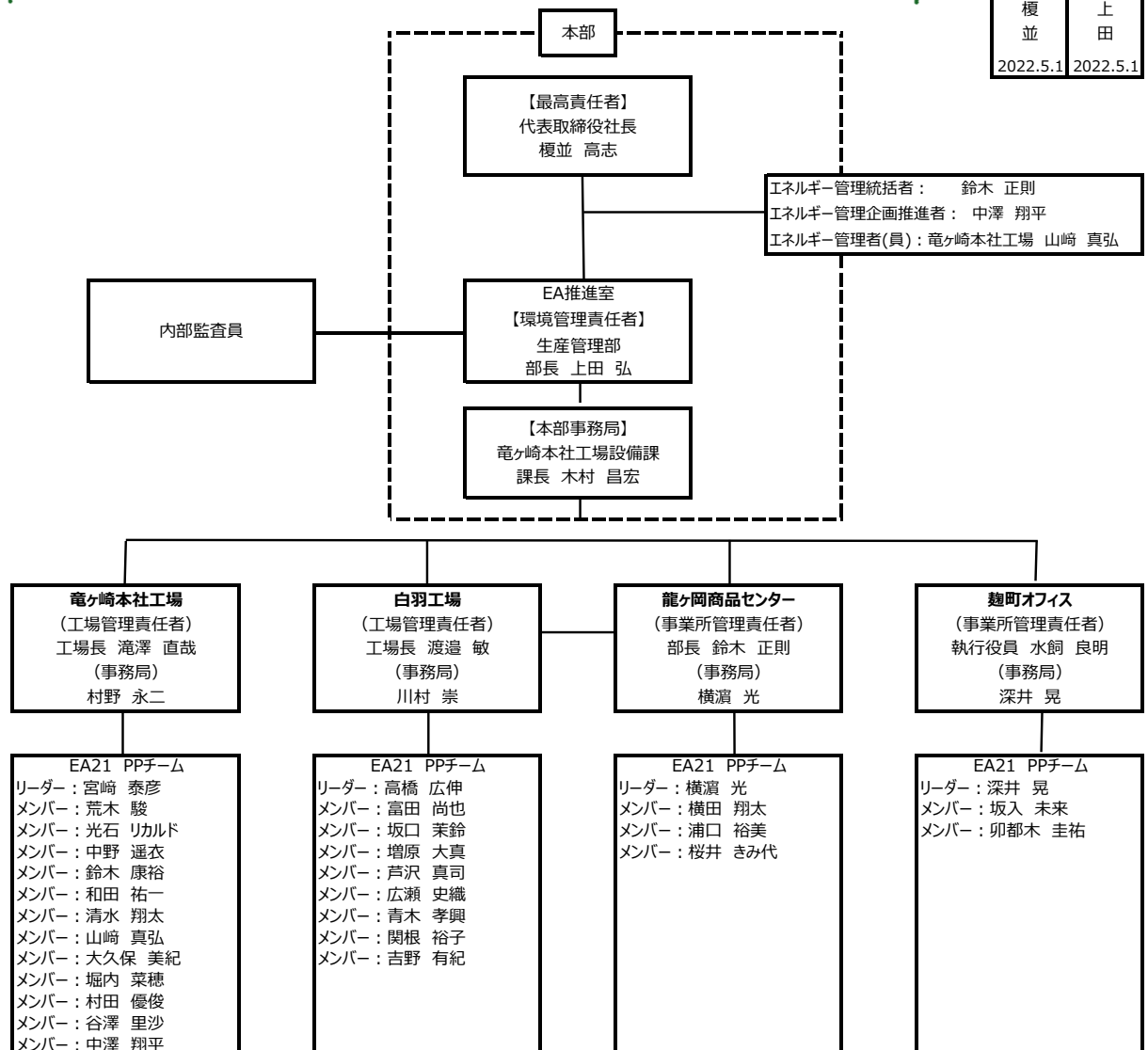


4. 2022年度 イセデリカ エコアクション21 推進組織図



(2022年5月1日作成)

承認	作成
榎並	上田
2022.5.1	2022.5.1



職名	役割
最高責任者	【代表取締役社長 榎並 高志】 ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく兼任で責任と権限を明示する ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む）を準備する ③環境経営方針を制定する ④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し環境経営方針・環境経営目標をはじめシステム全体の見直しを行い必要に応じ改訂を指示する
エネルギー管理 企画推進員	【エネルギー管理講習修了者 生産管理部 中澤 翔平】 エネルギー管理に関する中長期計画をグループ全体へ発信、実施状況を確認する
内部監査員	エコアクション21食品関連業者向けガイドライン2017年版をもとに内部監査を実施する 各工場のE A 2 1 P Pチームリーダーが内部監査チェックシートで監査を実施、環境管理責任者へ報告する
環境管理責任者 (工場管理責任者)	EA推進室【生産管理部 部長 上田 弘】 (工場管理責任者は工場長が兼務) ①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り目的を達成するために環境管理をする ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い最高責任者による見直しのための情報として構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する
本部事務局	【竜ヶ崎本社工場設備課 課長 木村 昌宏】 本部事務局として環境管理責任者を補佐しエコアクション21に関する実務全般を所管する
事務局	【竜ヶ崎本社工場：村野 永二】【白羽工場：川村 崇】【龍ヶ岡商品センター：横濱 光】【麴町オフィス：深井 晃】 事務局として工場（事業所）管理責任者を補佐しエコアクション21に関する実務全般を所管する
EA21 PPチームリーダー	【竜ヶ崎本社工場：宮崎 泰彦】【白羽工場：高橋 広伸】【龍ヶ岡商品センター：横濱 光】【麴町オフィス：深井 晃】 環境経営方針を理解し、各部門メンバーに共有し、主体的意識を持って行動する 各部門の全従業員に対し、チームリーダー自身含めメンバー全員での啓蒙活動を主体的に推進する
EA21 PPチーム	エネルギーと廃棄物に関する管理データをもとに小集団活動で改善を実践する
パートナー社員	環境経営方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する



5. 竜ヶ崎本社工場 事業活動の規模（2022年度）



1. 事業所及び代表者名

イセデリカ株式会社 竜ヶ崎本社工場
工場長 滝澤 直哉

2. 所在地

〒301-8505 茨城県龍ヶ崎市馴馬町5167-1

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 榎並 高志
環境管理責任者 : 生産管理部部長 上田 弘
工場管理責任者 : 工場長 滝澤 直哉
TEL : 0297-65-0505
FAX : 0297-65-0510

4. 対象範囲

イセデリカ株式会社 竜ヶ崎本社工場 全組織及び全活動

5. 事業の内容

温泉たまご・殻むきゆでたまご・フィリング・液卵の製造



6. 事業規模

(竜ヶ崎本社工場)

活動規模	単位	2020年	2021年	2022年
製造重量	t	16,220	16,130	15,542
製品売上	百万円	5,766	6,342	5,371
従業員数	人	253	239	278
延べ床面積	m ²	6,257	6,257	6,257



竜ヶ崎本社工場 環境目標とその実績

当社に於ける2021/2/1～2022/1/31の環境負荷実績を把握し、2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 環境目標とその実績

* 購入電力の排出係数は、0.39を使用しています。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2021年	2022年				2024年
	平均実績	目標	目標値	平均実績	目標の達成状況	目標
①製造重量1 t 当たりの電力による二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ / t)	177.7	2021年実績に対して1%削減	176.0	188.0	達成率93.5% ・目標に到達できず、さらなる施策が必要になる	172.4
②製造重量1 t 当たりのガスによる二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ / t)	157.3	2021年実績に対して1%削減	155.7	168.5	達成率92.4% ・ボイラー連続運転廃止	152.6
③製造重量1 t 当たりの排水量の削減 (m ³)	19.9	2021年実績に対して1%削減	19.7	20.0	達成率98.0% ・節水コマ設置 ・水量調整	19.3
④一般廃棄物排出量の削減 (t)	20.7	2021年実績に対して1%削減	20.5	19.0	達成率108.0% ・資源のリサイクル化に取り組む	20.1
⑤食品廃棄物排出量の削減 (t)	144.2	2021年実績に対して1%削減	145.7	153.4	達成率94.9% ・規格外製品はリサイクル製品として使用	139.9
⑥食品再生利用率 (%)	100.0	食品リサイクル法遵守	95.0	100.0	再生利用率100% 最終処分場で肥料化	95.0
⑦グリーン購入比率の向上 (%)	-	購入状況把握、向上	-	59.8	グリーン購入比率の把握は出来た 目標比率の設定を行う	グリーン購入の継続
⑧化学物質・毒物劇物取扱及び管理の徹底	MSDSの掲示 持ち出し記録・ 在庫確認を日々 実施	管理の徹底	-	-	紛失や異常処理はなし 取り扱い教育を通じて 関連労災をなくす	通常管理 関連労災 0 件

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	4,905,529	5,269,272	5,504,495
②廃棄物排出量(t)	1,567	1,979	1,958
③排水量 (m ³)	277,626	304,749	309,830



竜ヶ崎本社工場 環境活動計画の取り組みと評価

* 2022年2月～2023年1月までの活動の取り組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取り組み結果とその評価
1. 電力による二酸化炭素排出量の削減 ① 室外機への遮光ネット設置 ② 開発試作室 空調温度変更 19℃→24℃ ③ 冷蔵庫の冷氣漏れ確認し補修 ④ エアコンカバー設置 25℃固定 ⑤ 手洗い場温水設定変更 40℃→30℃ ⑥ 日中製造エリアでの節電活動の巡回	①△一部実施 ③× ②④⑤⑥○ 細かい取り組み事案は実施出来た。 ただ削減量が多い取り組み事案が、夏場前に実施出来ていないことが未達要因。今後へ向けて、取り組み事案の実施を確実に言い全員で取り組んでいける様、目標を明確にした項目を設定をする。 次年度の取り組み内容 室外機への遮光ネット・散水・工場建屋への二重窓の設置。 工場内人感センサーの設置。 中期計画として、経年劣化が進んでいるR22の空調室外機の入替を計画に入れ、削減を進める。
2. ガスによる二酸化炭素排出量の削減 ① ガスの連続運転廃止 22：00～12：00まで停止 ② 蒸気使用設備へのエコジャケット設置	①○ ②△一部実施 蒸気設備へのエコジャケット設置などを進めたが一部未実施が未達要因。下期はサーモグラフィなどで確認し削減項目を増やし、活動を推進する。 次年度の取り組み内容 蒸気を使用する製造設備へのエコジャケット設置を進め保温効果を高めることで、ガス使用量の削減を進める。
3. 排水量の削減 ① 手洗い場の水量調整 ② 使用水の再利用推 ③ 受水槽への水量バルブの調整 ④ 節水コマ設置	①～③○ ④一部のみ設置 工程ごとの水使用量を調査し、適正な使用量になるよう水量バルブ調整などの取り組みが実施できた。 次年度の取り組み内容 節水の取り組み（教育や掲示物など）を継続する。 中期計画として製造設備で使用したすぎ水を廃棄しているが貯水することで上水を使用するのではなく排水される水を場外の室外機への散水として再利用を計画
4. 一般廃棄物排出量の削減 ① 紙の使用量削減 ② エコキャップ活動 ③ ストレッチフィルムのリサイクル ④ 包材の再利用	①～④○ ゴミの分別は掲示物や声掛けで仕組みの構築は進んでいるが、ゴミの分別が不十分であり、継続した推進が必要。 次年度の取り組み内容 ゴミの分別活動の推進。 実施できていない、ゴミのリサイクルを推進。
5. 食品廃棄物排出量の削減 ① 規格外品の再生利用 ② 製品廃棄の抑制	①②○ 規格外品として廃棄されていた卵を活用できる商品開発の実施。 製品廃棄の数量・金額を可視化することでの対策実施ができています。 次年度の取り組み内容 製造工程（基準の見直し、作業標準化）の改善によるロス低減。
6. その他活動 ① 化学物質の適正管理 1. リスクアセスメントの実施 2. 有害性物質の表示の徹底 ② 緊急時訓練実施 ③ エコマーク文具購入の推進 ④ 地域へのボランティア ⑤ 製品の寄贈	①～⑤○ リスクアセスメントは定期で実施。 EA21を通じて緊急事態訓練を、実施出来たことを評価。 今後も訓練や評価などを定期的に行える仕組み化を継続。 地域へのボランティアとして、製品の寄贈を実施。消防署からの感謝状を頂く活動ができた。 次年度の取り組み内容 SDSのファイリング整理は、実施済なので取り組みを継続。グリーン購入を推進。地域交流・緊急時訓練の継続実施。

2022年度 竜ヶ崎本社工場 トピックス

①空調室外機を遮光ネットで保護し光熱費の削減

空調室外機がまとまっている3エリアに遮光ネットを設置し直射日光を遮ることで室外機の消費電力の削減を行った。

室外機群を覆うように遮光ネットを設置



②分別の強化・細分化

ゴミの分別を強化・細分化することにより一般ごみの細分化、廃プラのリサイクル、紙のリサイクルを推進した。

ストレッチフィルムのみ回収し、廃プラのリサイクルを実施。



使用済の紙を回収し、再生紙のリサイクルを実施。



ゴミの分別を細分化し、廃プラのリサイクルを実施。日本語、英語、ベトナム語、イラストでわかりやすく表記。



③節電活動の実施

工場共用部の照明スイッチに節電活動の表示をし、利用者に節電を呼びかけた。エコアクションを意識付けるために、エコアクション21専用掲示板を設置した。

節電呼びかけの掲示



空調スイッチにカバー設置し、ON、OFFのみ対応ができるようにした。





竜ヶ崎本社工場 代表者による全体の評価と見直し

【工場管理責任者】：竜ヶ崎本社工場工場長 滝澤 直哉 2023年2月1日

1. 総評

2022年度としてエコアクション21に初めて取り組んだが、取り組みは持続可能なものでないといけなことを強く感じた。全体を通して従業員を巻き込み協力して取り組むことが重要である。

出来ていない項目については、工場全体での啓蒙活動をすることで、全員への意識を同じ方向へ進むことから始めていく。

2. 取り組み結果

①電気によるCO₂削減については、遮光ネットなど取り組みを実施したが目標未達。

今後の継続した取り組みとして、製造機械の立上げ時間短縮、夜間の人のいない箇所の電気量削減する為、人感センサータイプへの変更を進めていく。また夏のデマンド対策として、遮光ネット及び散水の仕組みを構築していくことで、削減を見込む。中期計画として老朽化の進んだ設備入替を進めていく。

②ガスによるCO₂削減は連続運転を停止していたが目標未達。今後の取り組みとして、製造設備への保温カバーをすることで、稼働後のガス使用量低減を進めていく。製造設備の老朽化により熱効率が悪くなっている為、製造設備入替を実施する予定で取り組みを進める。

③一般廃棄物削減については目標達成。紙資源を削減の為、リサイクルに変更することで削減出来た。

今後の取り組みとして、製造各課の紙帳票の削減を進めることで更なる削減を進めていく。

3. 来期取り組み

取り組み課題として、廃プラスチックの削減を本年度はしっかりと分別出来ていなかったことから、まずは同じ方向で行動する為、啓蒙活動をしっかり行い、イセデリカで働く従業員に浸透させることできちんとした分別を行い取り組んでいく。

来期工場として更なるCO₂削減を目指す為、電気・ガス使用量を重点に設備面だけでなく機械の立上げ時間などを見直すことで使用量削減に取り組んでいく。

環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理	遵法
下水道法	排水処理施設の設置	遵法
騒音規制法	騒音特定施設の届出・管理	遵法
振動規制法	特定施設設置の届出・管理	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	遵法
食品リサイクル法	定期報告	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・定期報告	遵法
省エネ法	定期報告書、中長期計画書	遵法
フロン排出抑制法	定期点検の実施・記録の保管	遵法
労働安全衛生法	SDS義務のリスク評価	遵法
毒物及び劇物取締法	施設管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、流出の防止	遵法
消防法	危険物製造・貯蔵・取扱いの指定数量以上の設備の許可申請 製造所等の危険物保安監督者の届出 指定数量未満の危険物保管の扱い 指定可燃物の扱い	遵法
工場立地法	工場施設面積や緑地の整備状況について、市町村への届け出	遵法
茨城県地下水の採取の適正化に関する条例（地下水条例）	都道府県知事への許可申請	遵法
茨城県基本環境条例	省エネルギー化の推進・食品リサイクルの推進	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2022年9月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。



6. 白羽工場・商品センター 事業活動の規模（2022年度）

1. 事業所及び代表者名

イセデリカ株式会社 白羽工場・商品センター
工場長 渡邊 敏

2. 所在地

〒301-0841 茨城県龍ケ崎市白羽4-5-3

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 榎並 高志
環境管理責任者 : 生産管理部部長 上田 弘
工場管理責任者 : 工場長 渡邊 敏
TEL : 0297-86-8170
FAX : 0297-86-8180

4. 対象範囲

イセデリカ株式会社 白羽工場・商品センター 全組織及び全活動

5. 事業の内容

焼成品・殻付きゆでたまごの製造、自社製品・OEM製品の物流管理

6. 事業規模

(白羽工場・商品センター)



活動規模	単位	2020年	2021年	2022年
製造重量	t	4,412	4,370	4,119
製品売上	百万円	3,211	3,204	2,227
従業員数	人	166	157	162
延べ床面積	m ²	5,256	5,256	5,256



白羽工場・商品センター 環境目標とその実績

当社に於ける2021/2/1～2022/1/31の環境負荷実績を把握し、2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

1. 環境目標とその実績

* 購入電力の排出係数は、0.39を使用しています。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2021年	2022年				2024年
	平均実績	目標	目標値	平均実績	目標の達成状況	目標
①製造重量1 t 当たりの電力による二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂ / t)	315.6	2021年実績に対して1%削減	312.5	335.4	達成率93.1% ・節電対策として4項目実施したが、さらなる施策が必要	306.1
②製造重量1 t 当たりのガスによる二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂ / t)	192.6	2021年実績に対して1%削減	190.6	194.7	達成率97.9% ・製造量のコントロールで焼成機の稼働を減らしたことが効果が大きかった。	186.8
③製造重量1 t 当たりの排水量の削減(m ³)	8.2	2021年実績に対して1%削減	8.2	8.4	達成率97.5% ・節水コマの設置が計画より進まなかったため、設置を完了させる。	8.0
④一般廃棄物排出量の削減(t)	10.0	2021年実績に対して1%削減	9.9	6.4	達成率155.3% ・包材不良率の改善により、大きな効果が得られた。	9.7
⑤食品廃棄物排出量の削減(t)	15.3	2021年実績に対して1%削減	15.1	15.3	達成率99.0% ・歩留まり向上・検品強化、在庫管理の徹底により廃棄量を削減させることが出来た。	14.8
⑥食品再生利用率(%)	100.0	食品リサイクル法遵守	95.0	100.0	再生利用率100% 最終処分場で肥料化	95.0
⑦グリーン購入比率の向上(%)	-	維持向上	購入状況把握、向上	59.7	グリーン購入比率の把握は出来た 目標比率の設定を行う	グリーン購入の継続
⑧化学物質・毒物劇物取り扱い及び管理の徹底	MSDSの掲示。 持ち出し記録・ 在庫確認を 日々実施	管理の徹底	-	-	紛失や異常処理はなし 取り扱い教育を通じて 関連労災をなくす	通常管理 関連労災 0 件

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	2,315,758	2,221,587	2,162,387
②廃棄物排出量(t)	219	487	260
③排水量 (m ³)	54,052	35,797	34,292



白羽工場・商品センター 環境活動計画の取り組みと評価

* 2022年2月～2023年1月までの活動の取り組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取り組み結果とその評価
1. 電力による二酸化炭素排出量の削減 ①空調温度の適正化 (事務所等：冷房26℃ 暖房20℃) ②除湿機、二重窓、サーキュレータの設置 ③室外機の散水対応 ④不要照明の消灯 調光タイプへの変更 消灯表示の作成・掲示 センサー感度調整	①空調温度の適正化②二重窓、サーキュレータ設置④不要照明の消灯実施、など各部署の節電対策と③冷凍機室外機に散水を実施したが、想定よりも効果を得る事が出来なかった。今後は、商品センターの冷凍機室外機にも散水と、倉庫内の照明器具のLED化を進める。 次年度の取り組み内容 工場空調室外機に遮熱塗料を塗る。商品センターの冷凍機室外機にも散水対策を進める。事務所と食堂の二重窓設置を進める。
2. ガスによる二酸化炭素排出量の削減 ①ボイラの空気比適正化 ②蒸気・冷温水配管の保温強化 ③現場使用温水の温度設定見直し	①ボイラ空気比適正化、②配管の保温強化は業者と取組途中、③現場使用温水の温度設定見直しは実施済、ガス使用の多くは焼成機によるところが大きい。そのため、平日の製造量を増やし、日曜日を止める事で使用量を減らす対応を行った。商品センター洗浄ラインの稼働時間も、蒸気使用量に影響あるので今後は把握、管理が必要となる。 次年度の取り組み内容 商品センター洗浄ラインの稼働時間の把握と、蒸気使用量の把握、その管理対策検討。
3. 排水量の削減 ①節水シールの掲示 ②洗浄時に水を流しっぱなしをしない ③節水コマの設置	①節水シールの掲示②節水の呼びかけと掲示は実施済、③節水コマの設置は半数済、多国籍作業者を含む作業者教育を行い、意識付けからスタート。その効果の把握については、継続して確認して行きたい。 次年度の取り組み内容 工場内の水道に節水コマの設置を進める。室外機散水の再利用を検討。中期計画として冷水を使用している設備の入れ替えを比較検討し進めていく。
4. 一般廃棄物排出量の削減 ①分別の徹底 ②コピー用紙の削減	①分別の徹底はゴミ箱に掲示もなかなか浸透していない。廃プラスチックの削減として、トレー包装機のリパック数を減らすように、機械メーカーによる調整対応実施。包材不良率が3%→1.5%に改善した。包材歩留まり、リパック改善を継続していく。 ②コピー用紙の削減対応として、帳票の見直し、裏表仕様に変更。FAX→メールに変更実施。コピー用紙の上期累計削減枚数約3,100枚、金額として約1,610円削減。(0.52円/枚) 次年度の取り組み内容 包装機メーカーと連携し更なる包装不良削減。
5. 食品廃棄物排出量の削減 ①加工ロスの削減 ②分別の徹底 ③再資源化先の開拓検討	焼成機のオペレーター育成を行い、製品の品質安定化を進める事で最終製品の歩留りを上げ、①加工ロスの削減の対応とし廃棄不良を減らす取り組みを実施。原料卵の入荷時検査と安定購買を進めることで原料卵の品質が安定し、最終製品の歩留り向上につなげている。②分別の徹底は継続して落し込みを実施、③再資源化先の開拓は継続して検討を進める。 次年度の取り組み内容 上記活動の継続。
6. その他活動 化学物質の適正管理 ①リスクアセスメントの実施 ②有害性物質の表示の徹底 従業員教育	①リスクアセスメント②有害性物質の表示の件、安全衛生委員会にて薬品のSDS表示、リスクアセスメントの作成実施。②従業員教育に関し、新規入職者への薬品取り扱いルールなどを教育実施。 次年度の取り組み内容 上記活動の継続。



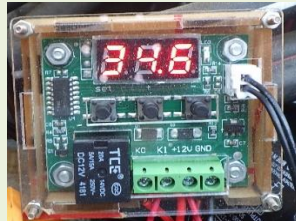
2022年度 白羽工場・商品センター・麹町 トピックス

① 散水制御温度センサーで室外機に散水

ボイラー軟水器を通した水をさらに、ろ過をして
室外機排熱温度を温度センサーで
感知し自動散水を行った。



機種によりス
プレータイプ
とミストタイプ
を選別し散
水。冷却効
果を上げる



② 掲示を統一し、空調や節電、節水の注意喚起を実施

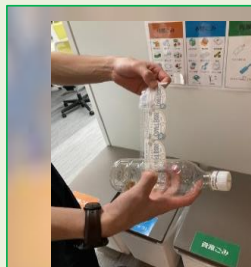


デザインを社内で
統一し、日本語、
英語、ベトナム語
で表記することで
全社員に周知を
呼びかける



③ 分別の強化・細分化

ゴミの分別を強化



ペットボトル・空缶のリサイクルを実施す
るため、分別できるゴミ箱を設置。
今年度より、エコキャップの回収を活動





白羽工場 代表者による全体の評価と見直し

【工場管理責任者】：白羽工場工場長 渡邊 敏 2023年2月1日

1. 総評

2022年度は、エコアクション21に取り組んで行こうとスタートしたが、工場として何を行えば良いか手探りの状態のなか、まずは節電、節水、ゴミの分別と進めて行き、選任されたメンバーの意識が高まってくると、活動は持続可能なもので、工場全員で取り組む必要性を実感した。今後、達成出来ていない目標を達成するため、朝礼や勉強会を通し工場で働く1人1人が、環境負荷に対する意識を持ち、同じ方向を向けるように進めて行く。

2. 取り組み結果（各項目の目標は前年比▲1.0%）

①電力によるCO₂排出量の削減は、前年比+0.7%で目標未達成。今後の取り組みは、まだ対策されていない冷凍機室外機への散水、室外機への遮熱塗料、商品センター倉庫の照明LED化を進める。

②ガスによるCO₂排出量の削減は、前年比▲3.5%で目標達成。今後の取り組みは、計画生産により、平日の製造量を増やし、日曜日の製造を日配品のみにする事で、焼成機(ガス使用)の稼働時間の調整を継続する。

③一般廃棄物排出量の削減は、前年比▲42.0%で目標達成。今後の取り組みは、表示と声掛けによる分別徹底の強化、発注書など紙使用のFAXをメール化、包装機のリパック削減を進める。

3. 来期取り組み

工場で実施した対策の商品センターへの水平展開（室外機散水、遮熱塗料、照明LED化）、散水の水を再利用、ゴミの分別、朝礼、声掛け等などの啓蒙活動による工場全員の意識を向上させる。

環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出・管理	遵法
下水道法	排水処理施設の設置	遵法
騒音規制法	騒音特定施設の届出・管理	遵法
振動規制法	特定施設設置の届出・管理	遵法
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・保存及び交付状況報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	遵法
食品リサイクル法	定期報告	遵法
容器包装リサイクル法	再商品化・定期報告	遵法
省エネ法	定期報告書、中長期計画書	遵法
フロン排出抑制法	定期点検の実施・記録の保管	遵法
労働安全衛生法	SDS義務のリスク評価	遵法
毒物及び劇物取締法	施設管理、使用量把握、貯蔵場所の表示、漏、 流出の防止	遵法
消防法	危険物製造・貯蔵・取扱いの指定数量以上の設備の許可申請 製造所等の危険物保安監督者の届出 指定数量未満の危険物保管の扱い 指定可燃物の扱い	遵法
工場立地法	工場施設面積や緑地の整備状況について、市町村への届け出	遵法
茨城県地下水の採取の適正化に関する条例（地下水条例）	都道府県知事への許可申請	遵法
茨城県基本環境条例	省エネルギー化の推進・食品リサイクルの推進	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2022年9月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。



7. 麹町オフィス 事業活動の規模（2022年度）

1. 事業所及び代表者名

イセデリカ株式会社 麹町オフィス
執行役員 水飼 良明

2. 所在地

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-2-4 麹町セントラルビル 1F

3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者 : 代表取締役社長 榎並 高志
環境管理責任者 : 生産管理部部長 上田 弘
事業所管理責任者 : 執行役員 水飼 良明
TEL : 03-6276-4705
FAX : 03-6276-4701

4. 対象範囲

イセデリカ株式会社 麹町オフィス 全組織及び全活動

5. 事業の内容

パック卵及び卵加工食品の販売



6. 事業規模

(麹町オフィス)

活動規模	単位	2020年	2021年	2022年
従業員数	人	11	11	11
延べ床面積	m ²	561	561	561



麹町オフィス 環境目標とその実績

当社に於ける2021/2/1～2022/1/31の環境負荷実績を把握し、2022年～2024年迄の目標を下記の通り定め活動を開始しました。

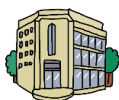
1. 環境目標とその実績

* 購入電力の排出係数は、0.318を使用しています。

環境目標	基準値	今年度目標				中長期の目標 (2年後)
	2021年 平均実績	2022年				2024年 目標
		目標	目標値	平均実績	目標の達成状況	
①電力による二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂)	1,051.9	2021年実績に対して1%削減	1,041.4	857.0	達成率121.5% ・テレワークによる勤務状況の影響大。 残業削減や扇風機による空気循環の施策	1,020.4
②一般廃棄物排出量の削減 (kg)	426.4	2021年実績に対して1%削減	422.1	400.0	達成率105.5% ・管理会社に任せていたものを自社で分別の実施 発生重量は管理会社からの数字なので、その整合性確認が課題	413.6
③廃プラ排出量の削減 (kg)	161.7	2021年実績に対して1%削減	160.1	168.9	達成率94.8% ・ゴミ袋計量1袋 = 10kg、少量 = 5kg換算（清掃会社さんの目検で判断）	156.8

2. 主な環境負荷実績

環境への負荷	2020年	2021年	2022年
①二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	—	11,571	11,300
②廃棄物排出量(kg)	—	6,320	5,120
③排水量 (m ³)	—	—	—



麴町オフィス 環境活動計画の取り組みと評価

* 2022年2月～2023年2月までの活動の取り組みと評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取り組み結果とその評価
1. 電力による二酸化炭素排出量の削減 ①空調温度の適正化 (事務所等：冷房26℃ 暖房22℃) エアコン設定温度の表示貼付け実施 ②不要照明の消灯 使用時のみ点灯の表示貼付け実施 ③仕事の効率化による定時退社の実施 ④扇風機の設定	①～④まですべて実施することが出来た。 また事務所使用時間を30分短縮することで、毎日実施の効果 4.15kw ×30日 = 124.5kw/月の削減を図った。 営業事務所なので、滞在時間が結果に大きく結びついた。
	次年度の取り組み内容 コロナ禍によるテレワークの継続導入や働き方の見直し推進を図り、 滞在時間を少なくすることにより、使用量を減らしていく。
2. 一般廃棄物排出量の削減 ①一般廃棄物（可燃ごみ）から プラごみを分別 ②紙皿、割り箸の削減	①、②ともに実施。 一番大きかったポイントとしては清掃会社に一任していたものを、自社で管 理出来るところはしていこうと意識が変わったところにある。 実績を把握・追求していくことでエコへの関心が高まっていった。 今までごみとして出していたものをマテリアルリサイクルすることやそもそも出さ ないという行動に移すことが出来た。
	次年度の取り組み内容 一般廃棄物の中でもどういったゴミが多く排出されているかの実態把 握をし、重点的に削減に向けた取り組みを検討する。
3. 廃プラの削減 ①分別の徹底 ②エコキャップ運動への参加	①、②とも実施。今までは清掃会社で分別していたものを自社で一般可 燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみに分別。資源ごみとしてマテリアルリサイクルで の活用につながった。 エコキャップ運動に参加することで、ポリオワクチンを発展途上国に送る運動 に賛同することで社会貢献にもつなげることが出来た。 実績としてボトルキャップを麴町オフィスだけで2ヶ月で1～2kg程度を継続的 に送っている。
	次年度の取り組み内容 上記活動の継続。



麹町オフィス 代表者による全体の評価と見直し

【事業所管理責任者】：執行役員 水飼 良明 2023年2月1日

2022年度の評価としてビル管理会社と交渉を行い、ごみ分別の仕組み作りの実施、エコキャップ運動への取り組みを行った。エコアクションメンバーからの情報発信を行い、徐々に意識的な行動に繋がっていった。

節電についてもエアコン設定温度の通達と実行により効果的な活動となった。見直し項目としてはまだ節電意識が浸透していないため、発信の強化と仕組み作りが必要。ゴミ分別についてもさらに詳細な分別に取り組んでいきたい。

環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	委託基準（契約書・許可証）、 マニフェスト交付・保存及び交付状況報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	遵法
省エネ法	定期報告書、中長期計画書	遵法
フロン排出抑制法	定期点検の実施・記録の保管	遵法
消防法	危険物製造・貯蔵・取扱いの指定数量以上の設備の許可申請 製造所等の危険物保安監督者の届出 指定数量未満の危険物保管の扱い 指定可燃物の扱い	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2022年9月1日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境関連法規への違反はありません。

尚、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

8. 緊急事態対応訓練記録



◇要求事項11：環境上の緊急事態への準備及び対応

1. 環境上の事故及び緊急事態を想定し、その対応策を定め、可能な範囲で定期的に試行するとともに訓練を実施する
2. 事故や緊急事態の発生後及び試行の実施後に、対応策の有効性を検証し、必要に応じて改定する

○訓練の実施

緊急事態の想定	排水施設からの漏水		
実施日	2022年8月5日	実施場所	排水処理施設
参加者	木村、上田、和田、芦沢、川村、大久保、中澤		
実施内容	流出防止・吸収訓練		
評価	・土嚢準備に時間を要するため ・別の土嚢を検討する		

実施状況の様子



化学物質油緊急時
漏洩用資材の設置
・吸収マット
・土のう
・おがくず



漏水吸収訓練



土のう運搬訓練



土のう塞ぎ止め訓練

9. エコキャップ活動



当社は、キャップ回収BOXを食堂に設置し、収集したキャップを「エコキャップ推進協会」に提供しており、再利用する事でCO₂排出量の抑制や、障がい者支援施設の運営等に寄与されております。

①リサイクルの促進、②CO₂の削減、③売却益で発展途上国の医療支援、④障がい者・高齢者雇用促進の4つを目的とする。



エコキャップ 受領書

2022/06/22

イセデリカ株式会社 竜ヶ崎工場 御中
ID: 91802
分類: 会社
住所: 茨城県龍ヶ崎市長町5167-1
FAX番号: 0297-65-0510

2022/06/06 2,00kg 860個

今回受領個数: 860 個 累計個数 (2022/06/06時点): 41,495 個

受領日	数量	価額(約)	備考
2022/06/06	2,00kg	860個	

ご提供いただいたエコキャップは再生プラスチック原料として換金し、医療支援や障がい者支援、子どもたちの環境教育等、様々な社会貢献活動にあてられています。
ご協力ありがとうございます。皆様のご厚意を大切に致します。

- 累計のキャップをゴミとして焼却した場合のCO₂発生量 → 303.98kg
※キャップ1kgで約1,150g CO₂が発生します

第10期に新たにご参加いただいたエコステーションをご紹介します

エコキャップ推進協会の活動の目的の一つとなっております。障がい者支援としてエコステーション機能があります。今回は2016年9月より新たにご参加いただいた感栄園にあります「NPO法人 生活支援ハウス アンアン」さんをご紹介します。

理事長 原田さまより
エコキャップは回収することからすでに社会とつながっています。分別・ルールがしんどいなど得意とすることを見つけ、やり方を工夫することによって障害がある人も参加できる仕事になります。

全文は、エコキャップ推進協会ホームページをご覧ください。
http://ecocap.or.jp/report_20151225.html
エコキャップ新聞2号に掲載
ご協力いただける施設を募集しております。法人本部までお問い合わせください。
※皆様の受領個数は当協会HPの「キャップ回収実績」に、掲載させていただきます

エコキャップ運動に参加いただいている企業のCSR、SDGsのパナー広告を募集しています。このパナー広告は寄付金扱いになります。パナー広告掲載料は年間30,000円・50,000円になります。掲載させていただいた場合、企業・団体のロゴをクリックすると企業・団体のHP(URL)に移動し、企業・団体のCSR、SDGsの活動等のご紹介をします。詳細はこちら https://ecocap.or.jp/csr_apply/

今回の

2022年8月17日

キャップ回収個数 1,505 個

累計個数 43,000 個

世界の子どもにワクチンを

- あなたの行動が世界の子どもと地球の未来を創ります!
- 小さなキャップでも、分ければ資源！リサイクルして価値ある材料に。
- ペットボトルのキャップをみんなで集めよう！キャップは430個で10円になります。
- ポリオワクチンは1人分20円！キャップ860個で一人の子どもの命が救えます。

いつもご協力ありがとうございます！

10. 地域貢献活動の紹介

龍ヶ崎消防署へ日ごろの感謝を含め、本年度は、4回にわたり温泉たまごを寄贈しました。

8月17日に龍ヶ崎消防署長より感謝状を頂きました。

いつも市民を助けてくれる消防署員の皆さんありがとうございます！



子ども食堂の皆さんへ！！（NGO未来の子どもネットワーク子ども食堂）

子どもたちの笑顔が見たくて！いつも『おいしいっ！』をありがとう。



式秀部屋でドスコイツ！

龍ヶ崎市内に部屋を構える【式秀部屋】の力士の皆さんへたまごの差し入れ！



流通経済大学の学生の皆さんへ

日ごろスポーツに頑張る皆さんへタンパク質の吸収がよい温泉たまごをお届け！



11. イセデリカ株式会社 代表者による全体の評価と見直し

【総評】

本年度の経営方針として、当社における環境経営のしくみの構築と推進を目的に、エコアクション21の認証取得を目標に設定した。推進プロジェクトメンバーを中心に、全部門を巻き込んだ環境負荷低減意識の醸成、目標に対する改善活動、しくみの構築、とここまで着実な活動に進められた。1年目の活動としてはその点は評価したい。足下の経営環境では、為替相場の大きな変動、エネルギー単価の上昇、原材料単価の上昇など、今期以上に厳しい状況が見込まれる中、環境経営の推進はより重要な取り組みと認識している。来期に向けては、今期以上に定量目標に対する全従業員の意識を高め、達成に向けた行動をより推進していく1年とする。

【環境経営方針の浸透】

方針の浸透については、日々管内放送などを活用した周知などを行い従業員への啓蒙を進めている。従業員の国籍も多様なため、引き続き丁寧でわかりやすい伝達を心がけ、目的の理解と行動の実践を目指して行く。

【目標・計画の達成状況】

それぞれの目標に対し、その改善に向けたアイデアの抽出、実践という流れが推進メンバーを中心に動き始めている。但し、目標の達成という視点では、一部の指標で未達成の状態が認められ、来期に向けた課題である。それらを達成するための課題意識の醸成、改善活動の実践、設備投資も含めた経営資源の投下、など率先垂範を心がけ、一層の全社的活動へと進化していきたい。

2023年2月1日
代表取締役社長
榎並 高志